

伊勢の造船資料を継承する会 2016年展示会報告

伊藤政光

市川造船資料を中心とした伊勢市大湊町の造船資料保存活動を続けている「伊勢の造船資料を継承する会」が、その活動の一環として造船資料展示会を昨年引き続き行いましたのでその概要を報告します。

1. 日時および会場

平成28年(2016)2月21日(日) 10時-17時

伊勢市労働福祉会館(伊勢市勢田町613-13) 2F大会議室

2. 来場者数

同日午前中は会場前の道路が三重県市町対抗駅伝大会のために交通規制がかかり、自動車での来場が不可能となったためにほとんど来場される方がいらっしゃいませんでしたが、午後になって来場される方が増え、最終的に93名の方においでいただきました。今回はマスコミでの開催案内をせず、大湊地区への新聞チラシ配布および関係者への口コミだけでの紹介であったにもかかわらず例年なみの来場者があったことで一安心しました。ただ、来場者がいわゆる「常連さん」になっている傾向もありますので、今後はマスコミを通じた事前の案内を行い、より幅広い範囲の方に来ていただくことが必要と感じています。

3. 展示内容

昨年までは特にテーマを決めずに、総論的に適当な資料を展示していましたが、何かテーマを決めたほうがよいのではという考えで、「初期木造漁業指導船」を主なテーマとして、その中で特徴ある船についての展示を行いました。その他には大湊町造船の歴史の概要、市川造船の洋式木造船技術習得についても展示しました。

初期木造漁業指導船は、明治期後期に政府が各府県に水産試験場を設置させ、そこでの活動に供するために建造したのですが、漁船の洋式船への変換を主導するために洋式船となっています。また、各種の発動機を搭載する試みも多く、漁船の動力化に大きく寄与しました。

市川造船では太平洋戦争開戦までに44隻もの漁業指導船を建造していますが、今回の展示では一連の漁業試験船建造の嚆矢となった大分県水産試験場の「^{うずひこ}珍彦丸」および「豊国丸」、和歌山県水産試験場の「那智丸」、漁船への発動機搭載では日本初と言われている静岡県水産試験場の「富士丸」、三重県水産試験場の「三水丸」(吸入瓦斯発動機付)、「五十鈴丸」(初期の漁船へのディーゼル搭載船)の資料を展示しました。



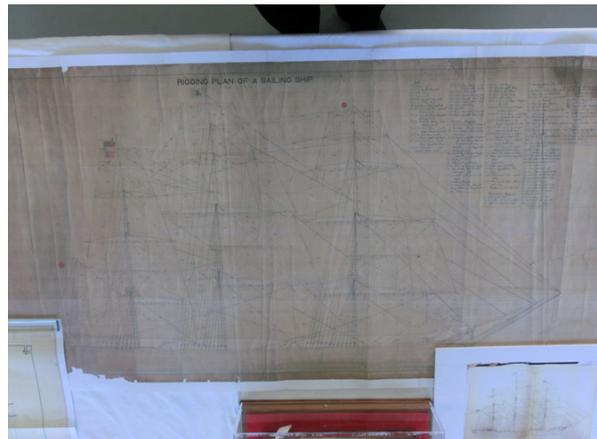
展示会の様子



大湊の造船業歴史関係の展示



洋式木造船技術習得資料



3 檣シップのセールプラン模写



模写原図写真と原著への書込

市川造船所の洋式木造帆船設計・建造技術の習得したかについては不明な点が多いのですが、市川源吉氏が重要な役割を果たされたことは確かです。独学で勉強された部分も多く、その痕跡が残されています。

この図面は三檣シップ型帆船の帆装図ですが、これと同じ図面を市川造船所に残されていた、William John Macquorn Rankine, Isaac Watts 著 “Shipbuilding, Theoretical and Practical”, Mackenzie, 1866 に見ることができます。

形状は原著を丁寧に模写し、セールやマスト等の名前は独自に整理・分類して記入しています。



「富士丸」の線図とセールプラン



「富士丸」ハーフモデル（建造時製作のもの）



「富士丸」建造時の写真



鯉鮪漁船模型（展覧会用に昭和5年作）

4. 講演

伊勢造船資料の内容を少しでも一般市民の方に理解していただくことを目的に、昨年より講演を行っております。昨年に引き続き伊藤が、「続・造船図面を読む楽しみ～市川造船建造の初期洋

式木造漁業指導船について～」という題目で話をさせていただきました。いささか恥ずかしいものですが、内容につきましては、別添のパワーポイント配布用書類を御覧下さい。

来年度は景山先生（元伊勢工業高校造船科）に大湊造船徒弟学校について話をさせていただくよう、すでにお願ひしてあります。



講演会の様子